

おいしいお米づくりを考える

おいしいご飯を炊くためには充実したお米が必要です。外から見たお米の形や中身の成分が組み合わさって食味に影響します。そのためには、まず外観の検査で1等米になるような、被害のない充実した豊満な形のものでなければなりません。さらに内容成分はご飯の味に強く影響しており、特に適度な粘りや食味にはアミロース（デンプンの種類）やタンパク質が関与しており、多すぎないことが求められます。

このような基準に合うお米を得るためには、増収をねらった栽培法から食味重視の栽培法に変更する必要があります。特に多肥、過繁茂は食味低下につながりやすく、無理、無駄のない安定した栽培を行う必要があります。

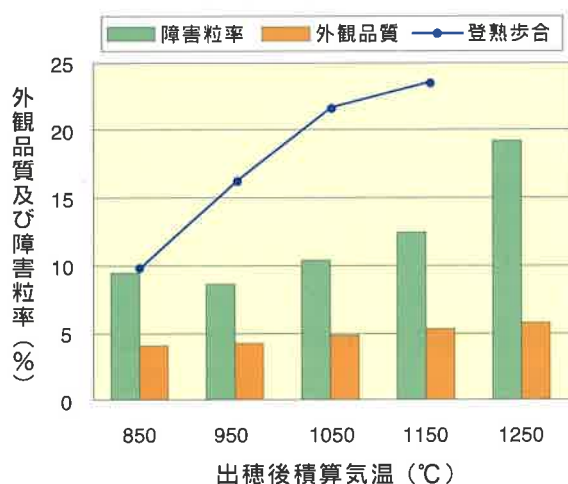
そのためには、たい肥等による地力を基本として適度な穂数や籾数が得られるように基肥を施用し、玄米タンパク含量が適正範囲に入る穂肥施用と健全な根の活力によって充実した玄米に仕上げる必要があります。



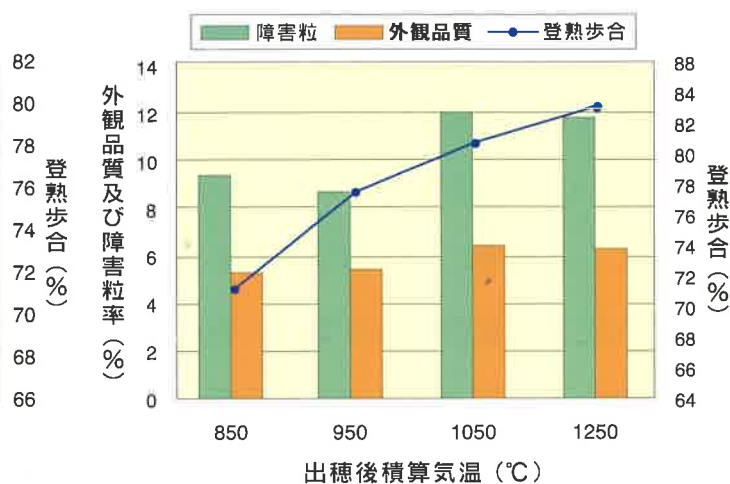
「晴るる」、「ひとめぼれ」の収穫適期について

水稻の収穫の適期とは、良質な完熟米ができるだけ多く収穫可能となる時期のことです。適正な籾水分は27%前後といわれています。では、外観品質（検査等級）が最も良くなる時期はいつでしょうか？収穫時期によって変化する品質上の要因は乳白粒、未熟粒、着色粒（茶米等）、胴割粒の多少が主なものです。第1図を見てください。「晴るる」では出穂後の積算気温（日平均気温の積算）が850℃の時は未熟粒が多いため、障害粒（未熟粒、乳白粒、着色粒のすべてを含む）は多くなります。その後登熟が進むと障害粒は減少します。更に1150℃以上まで登熟が進むと今度は乳白米、着色粒が増え、障害粒が再び増加し、胴割粒も増え、外観品質（検査等級）が悪くなります。従って「晴るる」の収穫適期は出穂後の積算気温で900～1000℃前後となります。この時の青味籾率は第1表のとおりです。同じ理由で「ひとめぼれ」の収穫適期も900～1000℃になります。（第2図、第1表）。

第1図 「晴るる」の収穫期別品質等



第2図 「ひとめぼれ」における収穫期別品質等



(注) 外観品質の評価は1～9の9段階とし、検査標準品の1等が5を下限に相当するように示した。

第1表 晴るる、ひとめぼれの刈り取り適期

品 種	適正積算気温	青味籾率
晴 る る	900～1050℃	10～20%
ひとめぼれ	900～1000℃	10～20%

「晴るる」、「ひとめぼれ」の主な品種特性

	試験地	出穂期 月日	成熟期 月日	稈 長 c m	穂 長 c m	穂 数 本/m ²	収 量 kg/a	栽培上の留意事項
ひとめぼれ	本場	8.14	9.26	91	19.7	435	65.0	耐倒伏性は劣るため、多肥栽培は避ける。いもち病に弱い ため、適期防除に努める。
	分場	7.29	9. 9	83	19.4	458	65.5	
晴 る る	本場	8.14	9.25	83	18.7	412	64.3	いもち病、紋枯病の適期防除 に努める。高品質化のため、 多肥栽培を避け、刈遅れに注 意する。
	分場	8. 2	9.14	81	19.2	433	65.7	

注1 表中の値は平成8～10年の3ヵ年平均

2 本場は山口市大内で移植期は6月13日、分場は阿東町徳佐で移植期は5月8日

3 ただし、本場の晴るるは平成8、10年の平均

水田の地力の推移と対策

「イネは土でとり、麦は肥料でとる」と昔から言われているように、水田における地力の役割は大きく、安定生産のためには「土づくり」が重要なポイントです。植物の必須元素は16種類ですが、稲はそれに加えて珪酸が重要な役割を果たしており、稲体の珪酸含量が高いと、病虫害抵抗性が高まる、倒伏しにくくなるなどの利点があります。しかし、山口県の水田土壌は、珪酸資材の施用量が少なくなっているため、有効態珪酸が大きく低下しています。また、養分の供給源となる腐植や根の活力を維持する遊離酸化鉄も低下しており、土壌改良資材や堆肥の投入などの対策が必要となっています。珪酸、含鉄資材の投入基準は100kg/10a、堆肥の施用基準は500～1,000kg/10aです。継続的に施用して、地力の維持に努めましょう。

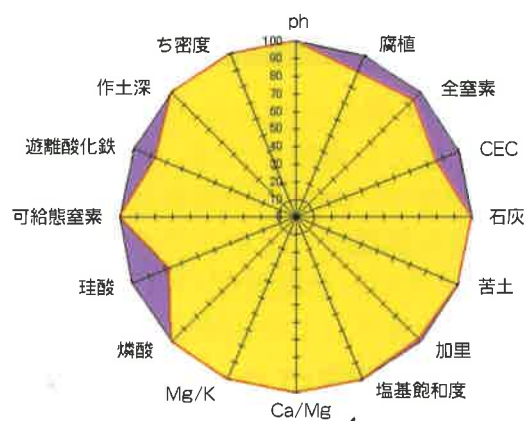
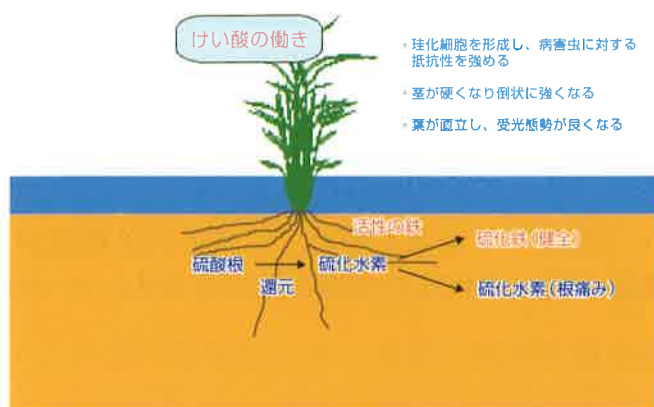


図 山口県の水田における地力の実態

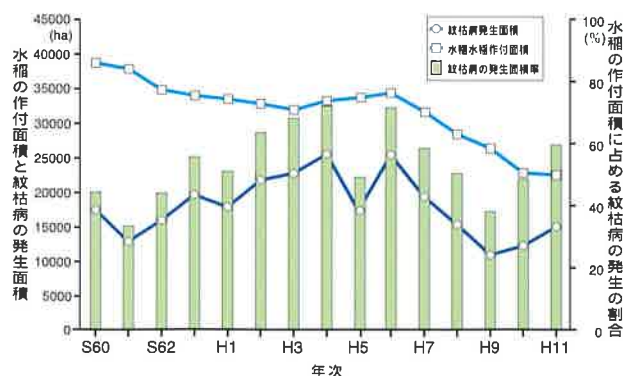
イネ紋枯病の発生動向と防除

本県における平成11年度の紋枯病の発生面積は15,300haで、作付面積の約60%に及びました。

多発生の原因は、出穂期以降、高温多湿の天候が続き、病勢の進展が止まらなかったことが考えられます。本病は水に浮く菌核で広がるため、水下（尻）に発生することが多いのですが、湿気の多いほ場の中央部から発生することもあります。

防除適期は、最高分げつ期以降で最上位の病斑が上位4葉鞘以下の時期です。始めは地ぎわ部に近い位置にあるため見つけにくい場合があります。また、防除の目安は、穂ばらみ中期（出穂14日前）の発病株率が15～20%以上です。

出穂した後も高温の続く年や曇雨天の多い年は、ほ場の中をよく見て歩き、発病状況の正確な把握を心がけるとともに、薬剤の特徴に応じた適期防除に努めたいものです。



山口県における水稲の作付面積とイネ紋枯病の発生との関係



年内に出穂する**超**極早生 イタリアンライグラス登場

山口農試育成
新品種

シワスアオバ



当場で育成したイタリアンライグラス新品種「シワスアオバ」が、いよいよ99年秋に販売開始されました。

新品種「シワスアオバ」はこれまでのイタリアンライグラスになかった「年内出穂」という画期的な特性を持つ「**超極早生**」品種です。

百聞は一見にしかず。

(写真：年内に出穂するシワスアオバ1996.11.23撮影)

●栽培特性●

- ★10月上旬までに播種すれば、安定して年内に出穂します。年内草の収量は「ミナミアオバ」の約3割増で、早播トウモロコシ、早期水稻の輪作に適します。
- ★ほ場に残る根量は「ミナミアオバ」の約半分で、後作の耕起作業や施肥管理が容易です。
- ★「シワスアオバ」を暖地型の牧草地に追播すると冬期でも収量が望め、草地の周年利用が可能になります。しかも衰退が早いので、夏期の暖地型牧草の生育を妨げません。

●栽培上の留意点●

- ★播種適期は9月中旬から10月上旬です。
- ★播種量は標準より多めの3.5kg/10aが適当です。
- ★県内の平坦部特に霜のおそい沿岸部に最適です。

農業相談コーナー（みなさんの質問は豆知識）

相談1：モグラ対策はありませんか

有機物を投入し、土づくりに励めば、ミミズが多くなり、それを狙ってモグラが訪れるようになります。モグラが来るのは土づくりを行って肥沃な畑地になった証拠とはいえ、トンネルを掘られ、作物の生育が抑えられるのは困ったものです。

モグラ対策には、2つの方法があります。その一つは、モグラが栽培圃場に近づかないようにするもので、音や電波、忌避物質を利用する方法です。もう一つは、モグラを捕獲するもので、罠を利用する方法です。

ここでは、モグラを捕獲する罠を仕掛けるときの注意を紹介します。単独生活し、嗅覚と聴覚が非常に発達しているモグラとの知恵比べです。

- ① トンネルにはモグラがよく通る幹線道路と、時々通る支線道路があります。罠は幹線道路に仕掛ける必要があります。幹線と支線を見分けるには、一度トンネルを踏みつぶして、短期間でまた盛り上がってくるか確かめておくことです。
- ② 罠に人間の臭いが付くと、モグラは警戒して寄りつきません。手袋を二重にして土で汚すなど、臭いを付けないよう細心の注意を払います。
- ③ 住み心地の良い圃場であれば、一匹捕まえても、他のモグラが次々と侵入してきます。一度モグラを捕獲した罠には、モグラの臭いが付いているのでかかりやすくなるようです。